



### コサメビタキ [ *Muscicapa latirostris* ]

夏を迎えた釧路湿原では、コヨシキリの囀りが響き、森へ入れば、センダイムシクイやエゾムシクイの金属的な囀りが、この季節を強く感じさせる。

ある朝のこと。林道の傍らの梢に、一羽のコサメビタキが現れた。無心でファインダー越しに見つめていると、その小鳥は突然、何者かに襲われた。心を静めて見ていると、それは求愛行動のようだ。離れたあと雄が雌にプレゼントを渡すのが習わし。それはもしかしたら、抱卵中の餌とりは心配要らないよ、というメッセージを伝えているのかも知れない。



## 塘路フィールドノート【6/15～7/14】

### 【野鳥】

アオサギコロニーもどうやら子育てを終えて少し静かになってきたようです。森はムシクイの季節はあつという間に終わって、コヨシキリやエゾセンニュウの声が響きます。タンチョウは子育て真っ盛りです。



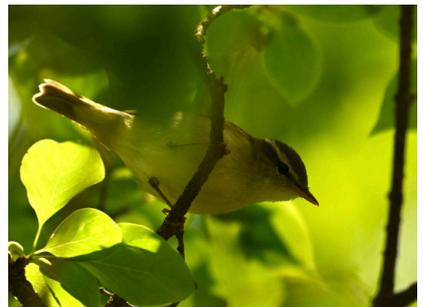
キビタキ (釧路湿原)

雌雄で行動している事が多い。美しい囀りを披露してくれる。雌雄異色。ヒタキ科



ベニマシコ (クチャロ線)

湿原帯で「ヒボボ」と囀っていた雄個体。夏毛はコントラストが強くなる。アトリ科



センダイムシクイ (コッタロ湿原)

初夏の森で「チヨチヨビー」と囀る。エゾムシクイよりも好奇心が旺盛?ムシクイ科



コヨシキリ (サルル沼周辺)

夏の湿原を代表する野鳥。ハンノキ枝先で複雑な囀りを披露していた。ヨシキリ科



タンチョウ (釧路湿原)

子育てに奔走中。雛が飛べるようになるまで、片時も離れない。北海道の鳥。ツル科



エゾフクロウ (釧路湿原)

巣立ちの季節がきて、心もとない2羽の幼鳥を遠くから見守っていた。フクロウ科

【植物・菌類】

初夏の花が咲いたのも束の間。あっという間に真夏の花が咲き誇る釧路湿原です。花に誘われた昆虫たちも、湖畔の花を忙しく飛び交って、花粉を拡散しています。



**クルマユリ (車百合)**  
湖畔の暗がりに咲く美しいユリの花。葉は輪生する。花言葉「神聖・純潔」ユリ科



**ヤナギトラノオ (柳虎の尾)**  
やや山地の湿原に静かに咲く花。花言葉は「あなたを待っています」サクラソウ科



**アヤメ (菖蒲)**  
存在感のある青い花を咲かせる。花言葉は「信じる者は救われる」アヤメ科



**タチギボウシ (立擬宝珠)**  
かつて湿原に多く見られたが現代は少なくなった花のひとつ。花言葉「沈黙」。ユリ科



**トモエソウ (巴草)**  
湖畔の水辺に咲く花。花弁が巴形に開く。花言葉は「幸福・守護」オトギリソウ科



**アミガサダケ (編笠茸)**  
遊歩道脇の林床に不思議な形の子実体をつくるキノコ。腐生菌。アミガサタケ科

【昆虫】

夏の釧路湿原は昆虫たちにとっても湿度が高く過ごしやすいようです。雨が降ったり炎天下の日が続いたりですが、昆虫たちは子孫を残そうと懸命です。ヘイケボタルも例年通り、たくさんの個体が舞いました。



**コムラサキ (塘路湖畔)**  
夏の林道に現れる蝶。構造色で角度によって紫に輝く。水溜まりで吸水する。タテハチョウ科



**オオミズアオ (釧路湿原)**  
羽化したばかりの雄個体。緑薄色の翅は新緑の中では保護色となる。ヤマモユガ科



**ミヤマクワガタ (塘路原野)**  
子供たちに人気の昆虫。樹液や雌をめぐって激しいバトルを繰り広げる。クワガタムシ科

◎新緑の展望台にて、野鳥の子育て奮闘を観察

6月22日は、初夏のサルルントーから水鳥の子育てを観察しました。  
曇り空ながら、ほぼ無風の天候の下、途中サルボチャシからの塘路湖を眺め、またエゾハルゼミの抜け殻やバイケイソウのシカの食痕などを解説しながら約30分で展望台へ到着しました。高倍率のデジタルカメラとフィールドスコープをセットし、眼下のサルルン沼にアカエリカイツブリの姿を捉えると参加者は、その子育て奮闘ぶりに興味深々。水面に静止しているメスへ餌を調達したオスが近づきメスの背中に乗っているヒナへの餌やりを観察したり、小さなヒナの初泳ぎを見届けると皆さんから、歓声が上がりました。  
一つ奥のポイントにもアカエリカイツブリのつがいを確認し、さらに奥のエオルト沼には多くのダイサギも見られて展望台滞在時間の45分が短く感じられるほど熱気溢れる観察会となりました。

参加者 15名



## ◎縄文時代の土器作りを体験しました

7月6日は標茶町立博物館との共催行事として、縄文土器を作るイベントを開催しました。冒頭、講師から当館建設の際に会場の下から出土したという土器について解説がありました。その後、参加者は本物の縄文土器を手にとって観察し、当時の土器づくりの工程が、なぜ現代になっても分かるのかなど、大変に興味深いお話を聴きました。

この講座では縄文土器を、当時の造り方に忠実に再現する形で行われました。輪積みという手法は、円盤状の底を作ったあと、ひも状にした粘土の輪を積み重ねながら形を整えていく方法で、中に空気が入ると焼きの段階で割れ易くなってしまいますため、その一点に注意しながら器を成形していきました。午後からは土器の表面に縄文模様をつける数々の道具が紹介され、紐を擦って表面を転がしたり、棒やヘラで突くと、どのような模様になるのかなど、実際の土器の模様と比較する形で実演されました。皆さん、気に入った模様を試行錯誤しながら、各々が個性的なデザインで土器を形成させました。形づくられた土器は、約1ヶ月間の陰干しを経て、8月の野焼きで完成となります。参加者 13名



## 8月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

### 夏休み！ 森林について学ぼう

[日 時] 8月31日(土) 10時～12時

[定員・参加料] 15名 無料

[開催場所] サルボ・サルルン展望台周辺

(集合場所はサルボ展望台 駐車場)

◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

### 夏休み！外来植物を探そう

[日 時] 8月4日(日) 10時～12時

[定員・参加料] 15名 無料

[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンター  
(0154-65-2323) まで

### 夏休み！ザリガニウォッチング

～ウチダザリガニ編～

[日 時] 8月18日(日) 10時～12時

[定員・参加料] 15名 無料

[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで

◆日出・日入時間 7/15(3:55,19:00). 7/30(4:09,18:46). 8/14(4:26,18:26)

～指導員のひとり言～

■初夏だなあと喜んだのも束の間、あっという間に真夏を感じるようになってきました。季節の進みが早すぎて、印刷直前のチェックで写真の差し替えを余儀なくされてしまった。

くしろ湿原ノロッコ号は、今年35周年を迎えたようです。この季節、緑の中を通過する姿が風物詩になっているのですが、来年が見納めと決まっているので、なんだか淋しい気持ちになりますね。

関東では気温40℃に迫る勢いということで、話題になっています。皆さま、熱中症にはくれぐれもお気を付けください。

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あること

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL: 015-487-3003 FAX: 015-487-3004

E-mail: emc@kushiro-shitsugen-np.jp

Instagram  torokoemc

開館時間: 10:00～17:00

(11～3月: 16:00まで)

休館日: 毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料